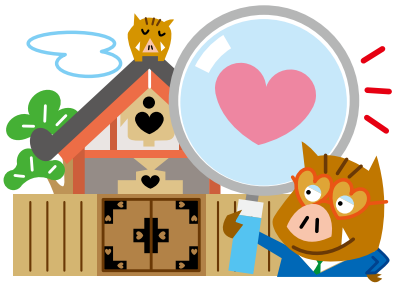
2019年 干支の話 亥

神社仏閣のハートは猪の目!?

神社や寺院、城などを訪れたとき、気をつけて見てみると、建物の扉の金具部分、灯籠の台座や窓など、さまざまな場所でハートの形を見つけることができます。

このハートは「猪目（いのめ）」といい、寺院建築の装飾として仏教とともに中国から伝えられたとされる、古い文様のひとつです。猪の目の形に似ていることから、この名称になったといわれます。

建造物に猪目が多く見られる理由に、動物の目には魔を祓う力があることから、魔除けとして用いられるという説があります。また、古代中国の「万物は木・火・土・金・水の5元素からなる」という陰陽五行



説を十二支に対応させると、亥は「水」に属するため、建造物を火事から守る火伏せのまじないの意味をもつともいわれます。

猪目は、刀の鍔（つば）、タンスや仏壇の飾り、鈴の切れ目の両端などでも見られます。初詣にお出かけの際は、探してみてください!

猪は本当は干支の1番目だった!?

十二支とは、もともとは植物の種子が芽を出し、成長して実をつけ、また種子をつくるという流れを表す言葉であったといわれています。十二支の最後である「亥」は、このひとつの流れが終わりを告げ、次の「子」から始まる新しい流れをつくる生命が種子で待機している状態。つまり、亥年は、次のステップに向けてエネルギーやパワーを蓄え、行動を起こす準備を整える年なのです。

十二支に動物が当てはめられたのは、一般の人たちにわかりやすくするためだったといわれます。十二支の動物がどのように決まったかという寓話には諸説あり、もっとも一般的なのが、元旦に神様のもとに到着した順番で決まったというものですが、最初に到着していたのは猪だったという説もあります。

「猪突猛進」のごとく、猪は神様のもとへ猛スピードでまっすぐに走り、一番に到着しましたが、勢いがつきすぎて神様の前で止まることができず、行き過ぎてしまいます。あわてて引き返したものの、そのときにはすでに11の動物が到着しており、猪は12番目の干支になってしまったそうです。